小谷地区
秋の大収穫祭

小谷秋の大収穫祭を終えて

秋晴れの下、10 月 29 日土曜日に、福祉健康部会と平成会共催で小谷秋の大収穫祭をあおぞらぱん屋さんの駐車場で開催しました。初めて開会式を設定し西本県議と小谷小学校区市民協働まちづくり協議会の加栗会長の挨拶を頂きイベントをスタートしました。小谷地区生産者の新鮮野菜と JA 女性部の手作り炊き込みご飯や甘酒の販売と、小谷おやじの会の協力でうどんの販売も企画しました。演芸イベントでは、小谷自慢の一心太鼓や老若男女の幅広いファン層を持つ岡田良二ショーは、来場者を盛り上げて頂き、小谷秋の大収穫祭も確実に地域に定着してきたことを、大変嬉しく感じました。最後になりましたが、ご協力頂いた多くの皆様方には感謝！感謝！の気持ちで一杯になりました。

小谷小学校区市民協働まちづくり協議会
福祉健康部会代表　　向谷　价令

一心太鼓

加栗会長による挨拶

小谷地区の新鮮野菜

親子でのじゃんけんぱん大会

岡田良二ショー

広島大学遊技団による
ジャグリング

小谷秋の大収穫祭

秋の恒例行事となりました「小谷秋の大収穫祭」。昨年度から小谷小学校区市民協働まちづくり協議会との共同開催となり、小谷の地域行事として位置付けられるようになりました。まちづくり協議会の方々との実行委員会では、出演ゲストや出店・イベント内容などについて様々な案を出し合い、収穫祭を盛り上げるための協議を重ねました。

当日は天候に恵まれ、多くの来場者で賑わいました。今年は新たにクジ引き大会も加え、景品に地元産の新米やお酒等の加工品・野菜の詰め合わせを用意し、当選された皆様にはとても喜んでいただき、収穫祭の名に相応しい催しとなりました。

今回の収穫祭を開催するにあたり、関係者の方々には多大なご協力をいただき、本当にありがとうございました。今後も地域に根差した活動を通じて、小谷地域活性化の一助となるよう取り組んでいきたいと思います。

支援員　松井茂雄

西の池学園

人材育成研修会を開催しました。

10月19日と26日の2日にわたって、平成会のプレゼンテーション大会を開催しました。事業所ごとのグループを作り、全20グループが各事業所の課題解決に向けた提言を行うというものです。

発表の１ヶ月前から各グループで話し合い、「支援についての情報共有を進めるには」「高齢化への対応」「地域貢献の発信方法」といった事業所ごとの課題抽出を行い、解決の方法を探り、具体的「アクション」を導き出すためのグループワークを進めました。そしてパソコン（パワーポイント）を使用した発表の準備を行い、当日を迎えたのです。

緊張感の中にも和気あいあいとした雰囲気の中、グループごとに工夫を凝らした発表が行われ、会場からは健闘を称える拍手が送られました。

「アクション」として提案されたことが各事業所で実践され、成果を挙げることによって、職員は達成感を味わい、仕事のやりがいにつながるのではないかと思います。

一人ひとりの職員が主体をもって日々の仕事に取り組んでいくことができるならおのずと人材は育っていくものと期待しています。

西の池学園
副施設長　田部　知紀

あおぞら工房

自分の人生は、自分で決める
～就労支援から考える意思決定支援～

Aさんはスポーツが好きで、週末は仲間達とバスケットボールやジョギングで汗を流す事が習慣になっています。

そんなAさんが洗車など車に携わる仕事を希望され、私もその思いが叶うよう就職先を探しました。そして無事Aさんの思いを満たせる企業を見つけることができましたが、雇用条件の一つに「日曜日は必ず出勤」というものがありました。Aさんは週末にスポーツをすることを楽しみにしていますが、この条件だと週末のスポーツは出来ません。憧れの仕事をとるか楽しみのスポーツをとるか、Aさんは本当に真剣に悩んだ末、スポーツを優先する人生を選択されました。その後も就職活動を続け、めでたく物流関係の仕事に就職することができました。

私たちは障がいのある方も、自分の人生だから、それで良いかどうかは「自分で決める」ことが大切と考えています。それが「その人らしい人生」を送ることに繋がると思います。Aさんも自分で下した決断だったからこそ、次の就職活動へスムーズに移れたのではないでしょうか。

これからも障がいのある方が自分の人生は自分で決め、その人らしい人生を送れるように、利用者さんの思いを尊重した支援をしていきたいと思います。

あおぞら工房　就労支援員
内田　孝洋

グループホー

二十歳を迎えて

Bさんは、二十歳を迎えた女性です。「ともがき」という事業所で働き始めて一年半になります。彼女は、二十歳になったら携帯電話を持つ事を身近な目標として頑張って来ました。

二十歳を間近に控えたある日、成人式について話している時、グループホームの先輩で、昨年着物を着て写真を撮った人がいる事を伝えたところ「私も着物を着て友達と一緒に参加したい」と言われました。

ただ、彼女は働いているとはいえ、経済的にはまだ余裕がありません。携帯電話購入のためにコツコツと貯金をされていますが、成人式に係る費用まで賄うことは難しく、そのことを話すと、彼女は迷うことなく着物を選択されました。

そして先日、衣装合わせに一緒に行きました。着物を羽織る彼女の顔は、頬がピンク色に染まり、恥らいながらも嬉しそうでした。

微笑みながら、姿見に映る自分を覗いている様子を間近で見た時、本当に良かったと思いました。一月の成人式を心待ちに、今日も笑顔で働きに出かけたBさんへ、「がんばって！」とエールを送ります。

グループホーム支援員　竹橋　真由美

晴れ着姿でパチリ！